

目的；履物購入時には、個人の自己申告サイズを基礎として、店頭でのサイズ合わせ、（サイズと足とのフィット感）が重視されるが、一般に履物を購入するときは夕方が良いといわれている。それは、ヒトの直立二足行動の結果として、体液の足部への貯溜などがおきることによって足部が大きくなるからだとされている。そこで、足部形態の変化がどのような動向を示すものであるか測定を試みたので、その結果について報告する。

方法；被験者は、健康な足部に障害のない女子10名である。測定項目は足形態の変動量の測定として、足長および足幅をFOOTER(WS-802)で、また、足部容体積は足底より外果上までの足部容積を逸水式足部容積測定器を用い、37℃に恒温とした測定器に足部をいれ、い水した水容積を計測し足部体積とした。測定期間は、1年で、ランダムに足長、足幅の測定をおこなった他、四季におけるその変動を観察した。また、被験者のうち3名については、夏と冬における足部容積の変動について、睡眠中を除く一時間毎の足部容積及び、入浴前後の変動についても観察した。

結果；1、午前と午後の測定結果より、年間変動量は、午後に足長の0.91%、足幅0.64%、足部体積1.17～1.24%増加した。2、夏に足部体積は3.07%増加し、足長1.13%、足幅3.49%増である。また、春夏では、秋冬より、足長1.65%、足幅3.89%の増加があり、季節により変動のあることを認めた。3、入浴後、冬では容積が大きく、夏は容積の小さくなることが認められた。4、足長、足幅の長くなる傾向は、直立二足歩行による縦、横アーチの低下が原因と考えられる。